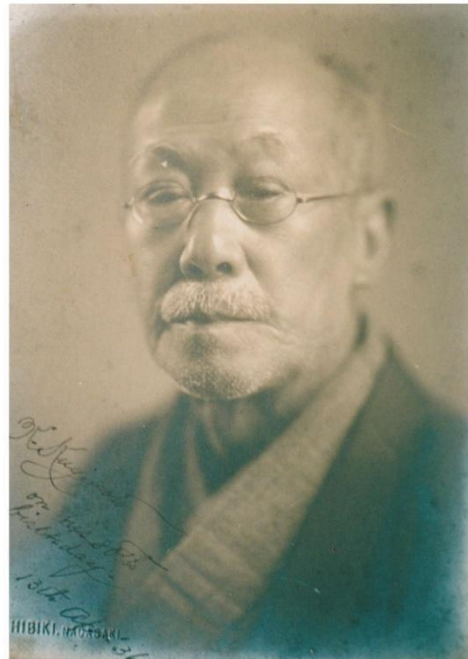
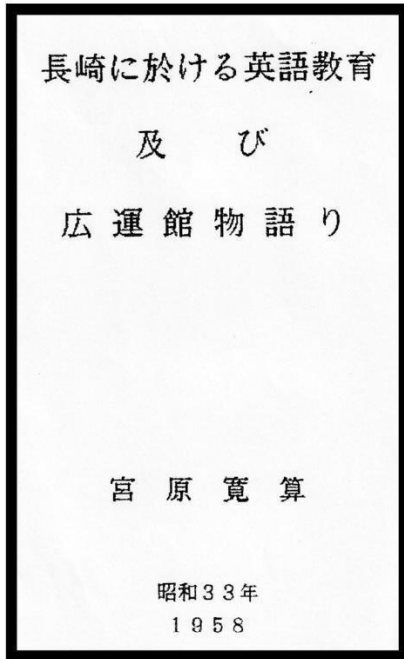
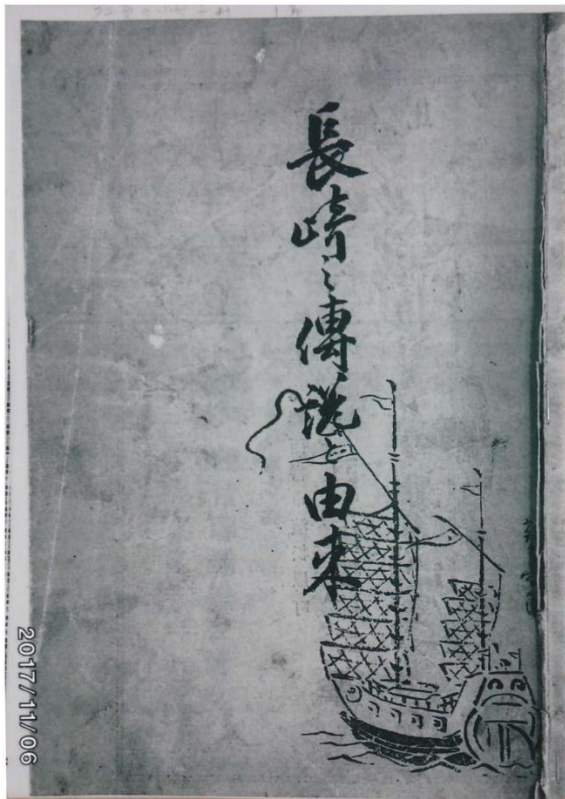


釘本完（信大）所蔵



釘本小八郎

1958年（昭和33年）9月17日 NHK第一放送
「長崎の手紙」放送



釘本八和太所蔵



言語界の先驅者 釘本小八郎先生

畧 歴

先生は安政四年四月長崎市唐屋町の醫家に生れた。嚴父に早逝されたが先生は夙に九才の時から當時の會所に通つて和蘭語を習ひ始められた。後に濟美館と云つて語學教授所が獨立した。明治初年廣運館と改名された。其處で和蘭人から英語を習得されたのである。先生の英語に和蘭語のアクセントがあつたといはれるのはその爲である。

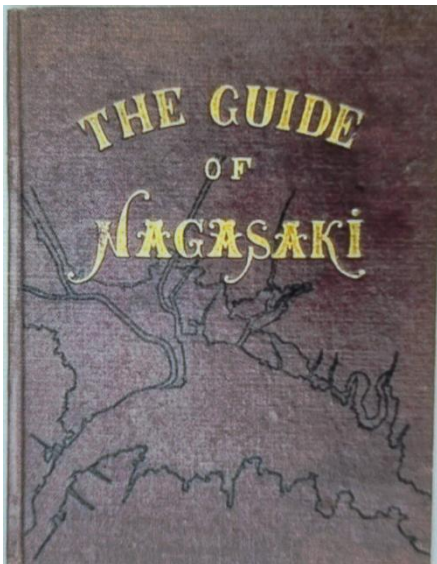
廣運學校（以前の立山の中學校）が明治九年英語學校と改名された時全校に補助教師なられ物價が現在の十分の一位だつた其頃二十五圓を給せられ長崎での高給者の上位であつたのである。

明治十年英語學校は廢校され明治十二年頃縣立外國語學校創立せらる。や全校に初めて我長崎中學校が生まれたのである。開校と同時に先生は此處に教鞭を執らる事となつた。明治二十年一時退職され東山學院に轉せられた。其翌年文部省から無試験檢定の英語教師證書が來たのである。そして明治二十九年四月再び尋常中學校（現長崎中學校の前身）に教員とされた。爾來大正二年に教諭は辞められたが引續き囑託として昭和二年まで教鞭を執つて何干といふ許多の子弟を導かれた。ランバツク先生と共に選信講習所に教授として壯者を次ぐ元氣をもつて育英の事に勵精せられてゐる。



念記祝奉誕降御下殿子太皇
會友崎 影撮日一十月二年

鎮西大社 諏訪神社



長崎の案内書 1897年 釘本小八郎著
長崎市自体に関する最古の英語ガイドブック。
九州大学に1冊、国立国会図書館に1冊のみ所蔵



白石町 陽興寺 (須古鍋島家御霊屋)



あや (長女) 昌光 (長男) 継母
 フミ (小八郎妻) 小八郎 昌二 (次男)



あや 昌光 昌二 (三兄弟)
 あやの夫



釘本つなよ・昌光・小八郎
 (母) (岳父) (祖父)

(釘本家・母方家系)



釘本昌二 (母方の叔父)
 1885 (明治18年) ~ 1961 (昭和36年)
 勅任官
 (旧東京大学・コーネル大卒)

急に決らうと存つて懐てりませう。
ご質問に答えるにそまふ来なくてお恥しい限りであつたが、お家の過去帳に書かれています情報に次の通りです。

眞部麟太郎

眞部麟太郎

安政四丁巳

四月十三日

本

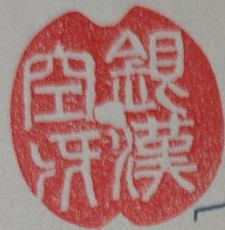
三十五才

〃

十一月三日

本

三十五才



(三日と十三日の両方の所に書かれています
どちらが正しいのか分りません)

季節節の書り目

お身代ご自愛の程を

百十々

銀漢 空に済ゆ

釘本完（義理の大叔父）からの手紙